

Result-Japan (リザルト ジャパン) 様

導入機材：『EinScan-Pro2X Plus』

ハンドメイドの丁寧な作りを活かしつつ、3Dデジタル技術で効率化。
3D デジタルの技術を取り入れて高品質な商品の提供。

事業・サービスの特徴

Result-Japan リザルトジャパン様は、自動車の外装用エアロパーツをメインに、徹底した工数削減と正確な精度が再現できる3D技術で、これまで培ってきた丁寧なハンドメイド技術を併用して開発、製造、販売を行っています。『EinScan-Pro2X Plus』にて車の形状の3D測定、3次元CADソフト『RhinoCeros®』を使用してアナログでは難しい複雑な形状を正確に制作しています。

3Dテクノロジー技術での作業効率化



従来のパーツ開発には発泡スチロールやパテを盛るなどして手作業でおこなっていましたが、ハンドメイドのため左右均等にするための時間がかかったり、再現が困難な形状がありました。



そこで、スキャンを行ってデータ化をしました。『RhinoCeros®』で設計したデータを3Dプリンタから出力します。出力しながら形状確認するため開発スピードが各段に上がりました。



スキャナーは車の全体に使用。

ハンドメイドでは型を取ることが物理的に不可能だったパーツ部分も『RhinoCeros®』を使用すると設計ができるので、制作が可能になり全体の精度があがりました。また工程が半分になり、全体の作業時間が短縮。結果、複数のパーツ開発ができるようになりました。



左：EinScan-Pro 2X Plus (SHINING3D社)
右：RhinoCeros® (AppliCraft社)

3Dツール導入の背景

以前は10万円程度のスキャンを使用していましたが、上手く撮れずに失敗してしまっていたことで、700万円程する高額なスキャナーも検討したけれど、価格的に手に入れるのは難しく『EinScanProPuls』が発売されると知り、価格も魅力的ということで弊社にお問い合わせをいただきました。

導入当時はまだ3Dスキャナーのシェア率はこの業界として、そこまで高くはないものの正確な制作をおこないたくて、導入を検討したとのことです。



3Dスキャナーを導入して2年経過。『EinScanProPuls』を初めて使用して『EinScanProPuls』の日本一号機です。作成したパーツ部分。

パーツづくりのためのデータ計測について

吉岡さんは、元レーザーということもあり、車の1つ1つのパーツにこだわりと愛着を持って制作をされていました。ベースとなる設計においては新しい技術の3Dツールを積極的に取り入れて、技術開発に余念がありません。

作業効率化を進め正確な精度にて制作しながらも、効率化によりできた時間で丁寧なハンドメイドの良さも加えているようでした。こだわりをもって開発をおこなっていく様子が伺えました。



Result-Japan リザルト ジャパン

代表取締役社長：吉岡 雅生 氏

<https://www.resultjapan.com>